

移住について関心を持たれる町

皆さん、こんにちは。古崎です。6月は田舎暮らし体験ツアーを実施し、参加者に柏もち・よもぎ大福作りや畑の収穫・種まきを体験してもらいました。貴重な体験を通じて、この地域ならではの魅力を感じてもらうことができました。

小野町は地方への移住を考える方たちから注目されています。その多くは東京にある移住の相談窓口で紹介されてやって来ます。その一因として、移住した方の先例が多いことがあるようです。また高速道路や鉄道が整備されアクセスが良い点や日常生活に不自由が少ない点が、

首都圏での生活が長い方にとって好条件となっています。

実際にいわゆる「先輩移住者」が数多く町に定住しています。移住した方にはユニークな方が多く、出身地や経歴においてバラエティに富んだ方たちが町に集まっていることを興味深いと思っています。

いろいろな方が集まっているおもしろい雰囲気やうまく作用して、さらに同様の人を引き寄せ、より多くの人から関心を持たれる町になるようPRしていきます。



柏もち・よもぎ大福作り体験



畑の収穫・種まきの体験

ふるさと小野町会

ふれあい通信



先崎 丞

せんざき・すすむ

- 飯豊出身
- 神奈川支部

交通事情今昔

昭和27年8月、お盆の帰省のことである。上野駅のコンコースに着いたのは、午後8時30分。午後11時30分上野発青森行き列車に乗るためである。混雑を予想してみんな早く着いている。翌日の朝午前6時に小野新町駅着。上野から小野新町まで6時間30分の旅であった。現在はどうか。東京・小野町間は自家用車で3時間である。上野駅での待ち時間に等しい。

さて、帰途である。小野新町駅午後8時発の最終列車に乗車。郡山駅を経由し、宇都宮を過ぎたころ急に列車が止まり、「保安だ！保安だ！」と叫ぶ声が車内に響いた。直後、警察権を持つ保安官が

入ってきて、無言で大きなリュックや荷物を柵から通路に降ろしていく。保安官は最後に、この荷物を持ち主は列車から降りよう命じ、何人が降りていった。当時は、ヤミ米摘発の時代であった。思いがけない経験をした。明け方午前4時上野駅に到着。動き始めた山手線で帰宅した。

この50年余で交通事情は、劇的な変貌を遂げてきた。未来は、地下にリニアモーターカーが縦横に走り、空にはドローンが飛び交っているのだろうか。人と物の移動の手段はどう変わっていくのだろうか。世の中の移ろいを見たい。